
**平成 23 年度 第 2 回 府中市高齢者保健福祉計画・
介護保険事業計画推進協議会
議 事 録 要 旨**

【日 時】 平成 23 年 7 月 5 日（火） 10:00～11:50

【場 所】 北庁舎 3 階 第 3 会議室

【出席者】

1 委 員

近藤委員、島村委員、鈴木（恂）委員、鈴木（眞）委員（副会長）、武市委員、田中委員、能勢委員、矢ヶ崎委員、渡邊委員、和気委員（会長）

（欠席者）角田委員、竹内委員、原田委員、田口委員

2 事務局

鎌田福祉保健部長、芦川福祉保健部次長、柏木高齢者支援課長補佐、山田介護保険担当副主幹、堀江地域支援統括担当副主幹、吉野事業者指導係長、関根介護保険係長、板橋地域支援係長、高野施設担当主査、村岡包括ケア担当主査、立浪介護サービス係長

3 傍聴者 2名

4 コンサルタント会社

田中、中村

【日 程】

1 開 会

2 議 事

（1）パブリックコメントの内容と実施時期について

（2）計画の体系（第5期）案について

（3）第5期計画の重点施策について

（4）その他

【配布資料】

◎資料 1

・府中市高齢者保健福祉計画・第5期介護保険事業計画策定までの予定表（案）

◎資料 2

・計画の体系（案）

◎資料 3

・計画検討作業ワークシート

【議事要旨】

1 開 会

事務局より、開会の挨拶が行われた。

2 議 事

(1) パブリックコメントの内容と実施時期について

【説明】

事務局より資料1「府中市高齢者保健福祉計画・第5期介護保険事業計画策定までの予定表(案)」に基づき説明が行われた。

【質疑応答・意見】

(意見本数について)

「質問A」

○前回のパブリックコメントでは、どれくらいの意見が寄せられたのか。

「回答A」

○数件程度である。

「意見B」

○東京都でも50件程度であることから、市区町村であればそれぐらいになるであろう。

(意見を多くするための仕掛けが必要)

「意見C」

○市民の施策に対する要望の中で高齢者福祉はかなり優位を占めている。パブリックコメントへの意見が出ないというのは非常に関心が低い、興味がないというところが大きいのではないか。

「意見D」

○総合計画でも公聴会を文化センターでやり、出来上がったものを公示して意見を募集したが、少なかった。本計画についても、公聴会などにより意見を掘り起こさないと、関係者だけの意見になってしまう。市民の方、一般の高齢者がもっと関心を持つような仕掛けが必要である。

「意見E」

○社会福祉協議会の地域福祉活動計画では、パブリックコメントへの意見はゼロだった。内容的に勉強していないと意見を出しにくいのではないかと思う。文書にして提出するのではなく、雑談形式のようなものがあると良いのではないか。

「意見F」

○パブリックコメントはガス抜きのイメージしかない。そのため「どうせ」ということで意見を出さない方も多いのではないか。そうならないよう具体的にどのように取り扱うのか、明確に記述すべきである。

「意見G」

○「パブリックコメント」という言葉自体が私たちに遠ざけている。高齢の方はまず出さないとと思う。「ご意見募集」のほうがまだ良い。また、「反映していきます」という一言があると、何か活用されるかもしれないなという気持ちになってくる。

「意見H」

○パブリックコメントと言われても、一般の方は意見を出そうとは思わない。場の使い方とネーミング、「思っていることを言ってくだされば、もっと良くなりますよ」と言ったようなものにするとともに、多種多様な手法で行うなど、もっと身近なものにする必要がある。

「意見I」

○市の統一方式があるので、福祉部だけ特別な方法をやるというわけにはいかないという制約がある。パブリックコメントではわからないので「ご意見募集」、「どうぞ、ご意見をください」とするなど。また、出しても意味がないと思われぬよう、「あなたの意見により、良くなります」など希望を持てる、期待を持つことのできるような表記にすべきである。府中市では意見に対する回答を出しているの、そのことを市民にもっとアピールすべきである。

(多様な手法が必要)

「質問J」

○ホームページに掲載し、募集しているのか。またメールでもオッケーなのか。

「回答J」

○ホームページと広報である。メールでも大丈夫である。

「意見K」

○市民の意見を集めるというのは、市民を傍観者にしないで、主体的に介護保険制度もしくは福祉に関して取り込んでいくという1つのツールである。自治会の回覧板で回すとか、概要だけ出し、意見を募集しますので各自治会で集めてくださいとか、そういった一歩踏み込んだやり方もあるのではないかな。

(2) 計画の体系 (第5期) 案について

【説明】

事務局より資料2「計画の体系 (案)」に基づき説明が行われた。

【質疑応答・意見】

(コンセプトのある体系づくり)

「意見L」

○基本コンセプトは何か。また、図式化すると分かりやすい。自助、互助、共助、公助という、利用者サイドや提供者サイドの視点からまとめ上げるという手がある。また、利用者に着目して、急性期、慢性期、終末期というまとめ方もあるし、行政と市民、事業者と市民みたいな、サービスを提供するサイド、利用者サイドから見てどうか、それから時間の流れに応じてどうなのか、そういったまとめ方もある。どういうコンセプトでやるのかももう一度確認したほうがいい。

「意見M」

○高齢者の状態で言っているのが1番、2番、4番だと思う。3番は地域の中でどうするのか、5番は権利擁護などを含めた共通の目標だと思う。また、1番が自助、2番が互助、3番が共助、4番が公助ということだが、2番は高齢者の状態像から言うと、ほとんど自立している方で、その生活をどうサポートできるのかというものであり、元気な順番から言うと、1番に来るのではないかな。1番の「健康づくり」は自助だと思うが、互助は3番の「地域で支え合う仕組みづくり」である。保険制度が共助で、税でやるところを公助という使い分けをしている。以前は共助がご

近所同士助け合うという話だったが、互助のところを限りなく広げて、つながりのある人で助け合っていこうというような形で書かれているように思うので、「地域で支え合う」というのは恐らく互助なのではないか。

(自助、互助、共助、公助とは)

「質問N」

○互助と共助の違いは何か。

「回答N」

○一般的には、公助は税金を投入したもので従来のもの、共助はいわゆる保険方式でやるもの。互助は住民参加型も含めた、お互いの助け合いであって、自助は家族とか親族という形の分け方をしている。しかし、介護保険や高齢者の分野に焦点を合わせると、この考え方はなじまないと思う。互助の部分は住民の見守りとかネットワークみたいなもの、共助は住民参加型のもの、公助は介護保険である。

「意見O」

○自助は、これまでの人生で培ったもので、個人個人で差が出るもの。互助は住んでいる地域力が出るもの。共助はみんなが受けられる仕組みのようなもので、公助というのは介護保険や福祉制度のことである。この体系で、主体を市民にすると、施策1、2、3は行政ができるお手伝い的な位置づけになり、4、5は施策という感じをイメージ的に受ける。行政はお手伝いするが、やるのはあなたたちですよ、みたいなイメージが出てくると良い。

(施策の順番について)

「意見P」

○高齢者が一人一人活動的に生活し、外に出ていく、働けるところが1番に来て、次に健康づくり、介護予防で良いと思う。特に健康づくりで「①病気の早期発見」が1番最初に来るのが非常に悩ましく、1番に来るのは「健康増進活動への支援」が適当である。次に、健康についての相談・普及活動、次が病気の早期発見、治療、介護度を悪化させないようにするという流れである。目標としては2が先に来て、健康づくりの推進の中身の順番を若干変えたほうが良いと思う。

「意見Q」

○自分が持っている力を地域へ還元する仕組みがどこかに入ると良い。地域へ帰ってきた人や退職した人が地域の構成員になれるような仕組みが必要である。

(生活支援サービスが重要になる)

「意見R」

○「生活支援サービスの充実」について、府中市としてポイントを置く箇所を明確にすべきである。

「意見S」

○介護保険は万能薬ではないので、解決できない部分について、いかに生活支援サービスと連携するかが重要になってくる。確かにこの表現だと分かりづらい。ひとり暮らしの在宅支援か、障害度の重い高齢者への在宅支援サービスか、つまり介護保険でもう手一杯だから、それ以外のプラスアルファで、市として上乘せ、横出しできないから、生活支援のほうで対応というイメージになる。しかし、それ以外にも生活支援サービスは多様にあるので、どのように分かりやすく入れ

るか、それが問題である。

「回答S」

○行政の施策だけでなく、社協やNPOなどの有償のものもある。そういった切り口も加えた形で考えると、工夫が必要である。

「意見T」

○「生活支援サービスの充実」について、2つしかないが、もう少し項目を増やせないか。また「活動的な暮らしへの支援」について、サービスの受け手ではなく、自分たちが提供する側が変わっていくという道筋も考えていくことが必要である。活動者への支援や育成なども項目立てできないか。それとともに項目の順番について、コンセプトを持って並べることも大事である。

（事業者との連携を模索すべき）

「質問U」

○行政でNPOなどの生活支援サービスは100%把握しているのか。

「回答U」

○していない。

「意見V」

○営利企業の部分をどう考えるかが問題である。高額であっても利用する人がいることは事実である。指定事業者になれば情報を把握できるが、そうでない場合は難しい。事業者サイドから見ても、指定事業者でない企業は仲間と捉えられない。

「意見W」

○事業者連絡会に介護保険事業者以外も入れて、情報共有を行うのはどうか。

「意見X」

○地域包括ケアになると、生活支援サービスは市区町村で対応することになるので、第5期の計画では何らかのポイントを打ち出しておくことが必要である。

「意見Y」

○介護保険事業の充実、施策の⑤で「サービス提供事業者等の連携とその支援」で、どのようなことを施策として検討しているのか。例えばサービス提供事業者の組織化、連絡会等というような具体的なことが入っていくのか。

「意見Z」

○三鷹市や東村山市では組織化されている。ただし、行政主体では上手くいかないのでは、事業者が自主的に組織化するようにしなければならない。そのような仕組みを構築するよう扇動してはどうか。

（情報提供の仕組みづくりが重要）

「意見a」

○ある高齢者が、体力が衰えて一人暮らしになったときに、無料・有料で利用できるサービスの情報（仕組み）が必要である。

「意見b」

○「利用者本位のサービスの実現のために」の情報提供体制の整備、利用しやすいサービス情報の提供、そういうところに一応入ってはいるが、改善の余地があるということである。

(医療との連携について)

「意見 c」

- 地域包括ケアで「医療との連携強化」がある。アンケート調査の中でも医療との連携強化というのが今懸案になっているので、ここを大きく出したらどうか。

「意見 d」

- 医療とは線を引いているところがあり、表現の仕方次第であろうが、難しい気がする。

「意見 e」

- 「在宅サービス等の提供」「在宅療養体制の整備」は、在宅慢性期で落ち着いた方への対応が中心ととれるが、本当に困っている方への対応を考えると、在宅と入院の間のつなぎや、急性期から慢性期への中での医療のつなぎといった視点を盛り込むべきではないか。

「意見 f」

- 症状が安定している施設利用者の8割ぐらいは在宅へ帰ることを望んでいる。しかし、サービスを利用するにあたっての費用的な問題や医療的な問題等がある。

「意見 g」

- 急性期、慢性期という話があったが、終末期の話も必要である。ターミナルケアについての施策も盛り込むことが必要ではないか。

(夢や希望を持てる施策も必要)

「意見 h」

- 「ふれあいの場の提供」とあるが、府中駅の第一地区の再開発に絡んで、5、6階部分をお年寄りが集える施設にできないか。財政的に厳しいかもしれないが、計画の中に少しでも夢とか希望、楽しみ、そういったことも反映できるような施策も必要なのではないか。

(施策等の表現について)

「意見 i」

- 「①情報提供の推進」を「NPOなど住民活動についての情報提供の推進」など、住民活動や地域貢献についての情報提供の推進というふうに、詳しく入れてほしい。「②活動・参加の支援」を「地域貢献活動・参加の支援」と具体的に分かるようにしてほしい。

「意見 j」

- 「いきいきと活動的に暮らすために」について、高齢者は活動的でなければいけないのか。その人なりに生き生きとしていればいいわけで、「生きがいのある暮らしができるために」で良いのではないか。

「意見 k」

- 「団塊の世代」という限定用語を使うのか。70代でも元気で積極的に地域貢献している方や、50代後半でも老後のことを考える方もいるので、世代限定するかどうか検討した方が良い。

(3) 第5期の重点施策について

【説明】

事務局より資料3「計画検討作業ワークシート」に基づき説明が行われた。

【質疑応答・意見】

(重点施策について)

「意見1」

- 目標、方針、施策という、いわゆる縦で整理されているものを面で捉えるような施策が重点として考えられる。11の地域包括支援センターでさまざまな住民参加型の取り組みをやっているので、今取り組んでいる面的な活動を把握し、重点施策に入れていくことが考えられる。

(地域包括ケアについて)

「意見m」

- 5番の「(2) 地域包括ケア体制の充実」について、相談、権利擁護、虐待防止、地域包括支援センターの充実が地域包括ケアなのか。地域包括ケアというのはもっと大きなコンセプトであって、それが5の(2)の中に押し込められている感じがするので、柱立てをもう一つ行うなど検討が必要と思われる。

(4) その他

【説明】

事務局より地域密着型サービス事業者指定部会の説明が行われた。

【質疑応答・意見】

なし

協議会の日程について、8月9日、9月15日の各午前に開催することとなった。

以 上